

岸田文雄様

第100代総理大臣へのご就任おめでとうございます。広島の代議士である貴殿が日本国のリーダーとなられたことを心強く感じています。

2018年12月に貴殿と東京の自民党政調会長室でお目にかかり核兵器廃絶について意見交換をさせていただいたことを、私はよく覚えています。その前年に核兵器禁止条約が国連で採択され、私は核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）のノーベル平和賞授賞式にて受賞講演をいたしました。そのことを踏まえ、私は、是非とも日本には核兵器禁止条約への署名・批准に向けて踏み出してほしいとの願いをお伝えしました。

これに対して貴殿は、被爆者の皆さんが現在の政府の姿勢について不満を持っておられることは理解できる、皆さんの言われることには道理がある、今後ともお考えを聞かせてほしいと仰いました。この条約には加われませんという政府の公式見解をただくり返すだけの政治家や役人が多い中、被爆者の声に耳を傾けながら歩みを進めたいという貴殿の姿勢を私はとても嬉しく感じました。

私たち被爆者は、1945年8月の米国による原爆投下によって無惨に命を奪われていった一人ひとりのことを常に思い出しながら、核兵器の廃絶を訴えてきました。

一発の爆弾で、広島は完全に破壊されました。人びとは燃えて灰と化し、蒸発し、黒こげの炭となりました。その中には、私自身の家族や、351人の同級生もいました。

オスロ市庁舎でのノーベル平和賞授賞式の際にも述べましたように、広島について思い出すとき、私の頭に最初に浮かぶのは4歳の甥、岸田英治です。彼の小さな体は、何者か判別もできない溶けた肉の塊に変わってしまいました。彼はかすれた声で水を求め続けていましたが、息を引き取って苦しみから解放されました。

彼の死を、あるいは彼と同じように非業の死を遂げた幾多の人たちの死を、決して無駄にしてはなりません。だからこそ私たち被爆者は、世界に対して警告を続けてきました。そのことの意味を、広島代議士である貴殿は十分に理解されていると思います。

岸田文雄さま、核兵器のない世界をめざすことはご自身のライフワークであるというこれまでのご発言が本当であるのなら、今こそそれを行動に移して下さい。

核軍縮のためには、今日多くの国際法制度が存在し、さまざまな国際的努力がなされていると承知しています。しかし今日もっとも重要なことは、核兵器禁止条約に加わることです。核兵器を、非人道的でいかなる場合も許容できない兵器であるとして全面禁止したこの条約に、唯一の戦争被爆国日本が背を向けていることが許されるでしょうか。日本がこの条約に加われば、それは世界全体に大きな波及効果をもたらし、核保有国さえ動かします。広島選出の総理大臣がその決断をせずに、いったい他に誰がそれをするのでしょうか。

総理大臣として、核兵器廃絶は日本の最優先事項であること、そして日本は核兵器禁止条約への署名・批准をめざすことを公約して下さい。その上で、来春にウィーンで開催される核兵器禁止条約締約国会議には、最低限オブザーバーとして参加することを表明して下さい。

新型コロナウイルスの蔓延が続く中ではありますが、私は条件が許せば、同締約国会議に参加したいと考えています。ウィーンでお目にかかれることを心より願っております。

貴殿がこれから日本の核軍縮外交を展開されるにあたり、常に広島や長崎の被爆者との対話を心がけてくださるものと確信しております。そして、世界各地の核被害者の声にも耳を傾けながら、政策を力強く前に進めていただきたいと思います。

総理大臣としてのご活躍を心より祈念しております。

2021年10月4日

サーロー節子